

宮古病院看護部の歴史と人材育成

沖縄県立宮古病院

安谷屋 正明

島嶼看護のリーダーの持続可能な育成

宮古病院看護部の歴史と人材育成

平成23年1月9日
沖縄県立宮古病院
安谷屋 正明

私は、宮古病院看護部の歴史を振り返りながら人材育成を考えてみたいと思います。

宮古島には8つの有人島があり、そこに約5万5,000人の住民が住んでおります。医療の対象は住民5万5,000人に加えて、1年間に宮古島を訪れる約40万人の観光客となります。ですから、観光産業のインフラとしての事業も担っていると自負しております。宮古島には国立南静園があり、ハンセン病の患者さん約90人療養しております。それから、県立宮古病院が一般病床255床と精神科50床を持っております。

宮古圏域の医療状況

有人島 : 8島 (うち2島は架橋あり)
 人口 : 約55,000人
 観光客 : 約40万人/年
 面積 : 225.651Km²
 沖縄本島からの距離 : 約290Km

一般診療所: 36カ所
 歯科診療所: 27カ所

宮古島徳洲会病院が80床のベッドを持っております。救急医療に関しては宮古島徳洲会病院と県立宮古病院が担っているということになります。宮古島リハビリ温泉病院は206床の療養型の病院であります。宮古島にはこの4カ所の病院があります。伊良部島にいきますと、徳洲会伊良部診療所が19床のベッドを持ち、約5,000人の住民の医療を守っているということになりますね。宮古島から飛行機で約15分飛びますと多良間島があります。そこには県立多良間診療所があって、約千数百人の住民の方々の医療を支えている。それから、一般診療所が約36あります。それに加えて、歯科診療所が27カ所で宮古島の医療を支えているということになります。

宮古病院の概要

- **病床数: 305床**
一般: 245、精神: 50、結核: 7、感染症: 3
- **診療科: 16科**
内科、外科、整形外科、脳外科、小児科、耳鼻科、産婦人科、泌尿器科、眼科、皮膚科、放射線科、歯科口腔外科、精神科、心療内科、麻酔科、リハビリテーション科
- **職員数: 401名**
医師: 40名
看護部門: 206名 (看護補助員29名含)
診療協力部門: 68名
薬局: 10、検査: 13、放射線: 10
栄養・厨房: 22、リハビリ: 10
管理部門 (事務、技能業務): 84名

1日平均入院患者数: 253.9人
 1日平均外来患者数: 439.8人
 平均在院日数: 11.0日 (前年125日)
 病床利用率: 83.3%
 緊急手術率: 40%

宮古病院は、急性期医療の中核的病院として、主に急性期医療を担い、地域医療機関との連携を深めている。

宮古病院を説明します。病床数が305床で、16診療科があります。職員数は約400人で、看護部門が約200人おります。年間の手術件数が約1,400件で、そのうちの救急手術率が40%と救急医療に占める割合、ウェートがかなり大きくなります。宮古病院はこの圏域の中核的病院として主に急性期医療を担っており、地域医療機関との連携を深

宮古病院の沿革

- 昭和25年：宮古民生府立結核療養所として設立
- 32年：現在地に木造平屋を新築移転
- 35年：琉球政府立宮古病院に改称：96床（一般22床、結核74床）
- 38年：多良間、佐良浜、来間、池間の各診療所は宮古病院管轄下に置かれる
- 42年：精神科設置（50床）
- 47年：沖縄返還に伴い沖縄県立宮古病院と改称
- 48年：病床数の増床 146床（一般48、結核48、精神50床）
：総看護婦長、看護婦長職を設置
- 51年：現在の本館竣工 195床（一般126、結核19、精神50床）
：副総看護婦長職を設置

宮古圏域の精神科医療の歩み

開 棟 前 : 一部患者が沖縄本島で受療、私宅監置、路上放浪、放置
昭和41年精神科病棟の竣工、
専門医の確保が困難、病棟の開棟できず

派遣医の時代1：琉球精神病院からの医師の出張診療、看護師派遣、患者の収容
→週3日の出張→変則的な診療体制
昭和42年2月に精神科の開設→近代精神医学の導入

派遣医の時代2：昭和42年5月に日本政府派遣の精神科医が3ヶ月毎の医師の交代で来島（大嶺、岡庭、蜂矢など）
→患者の診察、患者動態調査、私宅監置の解消、病棟環境の調整、看護の自立、離島巡回診療、八重山出張外来、先島精神医療の報告

この部落には、今なお私宅監置患者が残されている。6年間監置されたという43才の男の分裂病患者は、全裸で物置にうずくまっており、腰から下は糞便で黄色く汚れていた。入院後しばらくの間、歩きながら大小便をたれ、手掴みで食事する習慣が改まらなかった。

15年間監置されていたという41才の女の分裂病患者は、一応浴衣を着ており、話しかければ、無表情ながら小声で応答したが、室内には、床下に溜まった汚物の臭気がたちこめていた。入院の翌日から病棟内の掃除を手伝うことができ、2ヶ月後には生活態度の上で病棟内の模範生になった。

興奮、暴行、浮浪などに困って監置したのだろうが、入院後からおとなしかった。この2人が、6年も15年も監置されていた理由が、納得いかなかったものである。

私宅監置下の患者の収容（蜂矢の報告書から）

めているところ です。

宮古病院は昭和25年に宮古民生府立結核療養所として開設しました。昭和42年には50床の精神科が設置されました。宮古圏域の精神科医療を見てみると、宮古病院の精神科病棟ができるまではほんの一部の患者さんが沖縄本島に受診するだけで、ほとんどの患者さんが私宅監置、それから路上放浪、放置ですね。そういう状況の中で、昭和41年に精神科病棟は竣工しました。ただ、専門医の確保が非常に困難で、1年間遅れて病棟をオープンしているという状況があります。ですから、この当時から医師の確保に関しては非常に厳しい離島の状況が分かるかと思います。それで、沖縄本島にある琉球精神病院から医師を派遣してもらいました。それから、精神科の看護師も琉球精神病院から派遣され、変則的な診療体制で医療をスタートしております。それに引き続き、昭和42年からは日本政府派遣の精神科医師が3カ月交代で来島し、精力的な仕事をしております。この頃から看護の自立のために看護教育に取り組んでいたということになります。その中で蜂矢英彦医師の私宅監置下の患者の収容という報告書があります。「この部落には今なお私宅監置患者が残されている。6年間、監置されたという43歳の男の分裂病患者は、全裸で物置にうずくまっており、腰から下は糞便で黄色く汚れていた。入院後しばらくの間、歩きながら大小便をたれ、手つかみで食事をする習慣が改まらなかった。」と書かれています。

それから、「15年間放置されていた41歳の女性の分裂病患者は、一応浴衣を着ているけれども、話しかければ無表情で小声で応答したが、室内には床下にたまった汚物の臭気が立ち込めていた。だけど、入院翌日から病棟内の掃除を手伝うことができ、2カ月後にはその生活態度は病棟の模範生になった」と。この先生は、「興奮、暴行、浮浪などに困って監置したのだろうが、入院後からおとなしかった。この2人が6年も15年も監置されていた理由が納得いかなかったものである」と報告しています。私の沖縄本島や本土と離島の医療格差を何とか縮めたいという原点になっている報告書です。

それから、昭和48年には総看護婦長、それから看護婦長職を配置しております。昭和51年には副総看護婦長職を配置。病床がどんどん増えるにあたって宮古病院の看護部も組織化しなければならないという流れです。いろいろな診療科がどんどん増えまして、昭和59年に総合病院となっています。

昭和52年：救急病院指定、小児科・整形外科開設
195床（一般126床、精神50床、結核19床）

54年：産婦人科開設

57年：耳鼻咽喉科・眼科開設 **CT装置導入**

58年：皮膚科開設

59年：総合病院の名称承認 **アンギオ導入**

60年：人工透析開始、リハビリ部門開設、人間ドッグ
393床（一般286、精神100、結核7）

トライアスロン開始

61年：看護科→看護部、総看護婦長→看護部長と名称変更

62年：看護婦宿舎新築
特殊外来（糖尿病、肝臓病）
地域の訪問看護の先駆的役割
専任体制として外来に看護婦を配置
1日に約30〜50名の患者さんを訪問
訪問診療として診療報酬を請求する体制

平成 元年：泌尿器科・麻酔科開設

5年：脳神経外科開設 **訪問看護開始**

6年：主任看護婦の職を設置 **院内看護学校を開設**

熱き海風・太陽
君を待つ

トライアスロンの訓練
看護師が各テントのリーダーとして活躍

**SWIM 3Km
BIKE 155Km
RUN 42.195Km**

第26回全日本トライアスロン宮古島大会
2010年4月18日(日)

院内看護学校

看護師自ら学ぶことを目的に看護師連がチームを作り、自分たちなりに講義を計画実施した。

- ・講師は各看護師が得意分野を実施
- ・講義を担当した看護師には終了記念テレホンカードを配布
- ・受講料1回100円を徴収、運営費とした
- ・平成8年まで継続

看護師が主体的に学ぶ土壌作り

平成 7年：高気圧酸素治療開始

9年：重度心身障害者全身麻酔歯科治療開始 **喘息外来**

10年：リハビリテーション科新設、ペースメーカー移植術承認

11年：第2種感染症指定病院指定（3床）
保健師・助産師・看護師臨床実習指導者講習会へ受講

13年：歯科口腔外科開設
心臓カテーテル MRI導入
精神科デイケア開始
その後は毎年1〜2名の看護師を受講
現在まで受講者は14名

- ・臨床実習指導者講習会受講者がチームを結成
- ・院内学習会を開催
- ・相互の情報交換会

15年：地域連携室開設 **カトレア会発足**

16年：精神科作業療法開始、初期研修医受け入れ開始

18年：ICU開設、精神科C2病棟閉鎖（精神50床）
精神科デイ・ナイトケア開設、**RITOPRO**

- ・デイケア機能の整備
- ・作業療法の強化
- ・訪問診療・訪問看護の充実

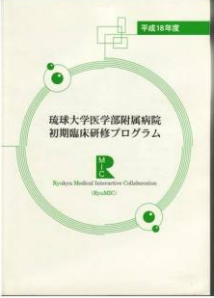
21年：県立看護大学・大学院宮古島教室開所

昭和60年からトライアスロンが始まります。宮古の風物詩として語られます。昨年で26回を迎えて、本当に長年やってきております。トライアスロンに関しての評価というのはいろいろあります。ただ、看護職からの視点で見ますと、まずトライアスロンの訓練になってきているんだろうということが1点と、先ほども佐久川さんから話がありましたけれども、医師の少ないこの離島の中で看護師が各テントのリーダーとして活躍してきているわけです。人をとりまとめたり、いろいろなリーダー職としての大きな役割があったと考えております。

それから、昭和61年に看護科が看護部になり、総看護婦長が看護部長と名称を変更しております。昭和62年には、沖縄本島からの看護職もどんどん宮古に来るようになって、看護婦の宿舎を新築しております。平成5年には訪問介護を開始しております。地域の訪問看護の先駆的な役割を果たして、専任体制として外来に看護婦を配置、1日に約30人から50人の患者さんを訪問しております。平成6年には主任看護婦の職を設置しております。同年に院内看護学校を開設しているわけですね。ですから、この頃から離島の看護師たちは勉強したい、何かを求めたいという動きがあったと思うんです。ここに書いてあるように、看護師自ら学ぶことを目的に看護師たちがチームをつくり、自分たちなりに講義を計画して実施した。受講料を集めながらその運営費に充てたということです。左のスライドにありますように、中部病院の感染症を専門にしています遠藤先生を呼びまして記念講演会もしてもらっています。それから、中部病院の看護師を呼んで、院内感染症に関する講義をしてもらっています。ですから、離島においてはいろいろ学ぶということに関しての欲求が非常に強いわけです。このようなことで、この頃から自分たちで学んでいこうという動きがありました。

平成11年に保健師・助産師・看護師・臨床実習指導者講習会の受講が始まっています。この頃からおそらく今の看護学生の受け入れを視野に入れた動きが始まっていると考えられます。その後は毎年1、2名の看護師を受講させるようにし、現在まで受講者は14人に上っております。

初期研修医師の受け入れ



琉球大学の研修協力病院

- 救急医療コース 3ヶ月間
- 地域医療コース 1ヶ月間

受け入れた研修医の総数 : 46名

- 救急医療コース : 32名
 - 琉球大学 → 31名
 - 福岡大学 → 1名
- 地域医療コース : 14名
 - 琉球大学 → 8名
 - 中頭病院 → 2名
 - 青森県むつ総合病院 → 2名

基幹型臨床研修病院へ向けて準備を進めている。

ICU開設


ICU開設に向けて実務研修を6名の看護師が中部病院で研修

研修内容

- 1、ICUの運営管理
- 2、重症患者の看護実践
- 3、患者・家族の対応
- 4、特殊技術や機器について
- 5、ICUの環境など

2 : 1看護体制のため14名の看護師配置

医学部学生の研修



RITOプロとは、琉球大学離島医療人養成教育プログラムの略

Ryukyuu university Island medical doctor Training education Office Program

- 琉球大学医学部の4年次を対象に、離島医療を体験し、医療側のみならず生活者の視点に立って離島医療の問題点、実態を実感してもらうことで、離島医療への理解と興味を抱かせることを目的としたプログラム

→ 1週間

地域医療学生実習生の受け入れ : 神戸大学、杏林大学 (5年次 1か月間)

平成 15 年に、昨日も話がありましたカトレア会が発足しております。これは臨床実習指導者講習会受講者がチームを結成して院内学習会を開催して情報交換などをする会で現在も続いております。平成 16 年から看護職に先駆けて医師の方で初期研修医の受け入れ体制がスタートしております。これは琉球大学の研修協力病院として救急医療コースの3か月間、地域医療コースの1か月間です。これはもう6年間やっています。受け入れた研修の総数は約45名に上っています。救急医療コースが琉球大学31名で、昨年からは福岡大学の救命救急からも研修に来ております。それから地域医療コースが14名で、琉球大学以外にも沖縄本島の中頭病院、それから、北の遠く青森県の総合病院からも2名の研修医が来ております。この地域医療コースの研修にあたっては宮古圏域の18施設に協力をいただきながら研修プログラムを組んでおります。これには当院の医療部長が情熱的にプログラム作成を行ってまいりました。現在、基幹型の臨床研修病院に向けて準備を進めているところです。これは将来的に宮古を担っていく医師たちを育てたいという熱い思いですね。

それから、平成 18 年にはICUを開設しております。開設に向けて6名の看護師を中部病院に研修のために派遣しています。そこではICUの運営管理とか患者家族の対応とか、そういうことを学んでもらいました。離島の病院にとっては新しい診療科を開設する時などに看護師たちにいろいろ学んで伸びてもらった、これを繰り返してきたわけです。この積み重ねが非常に大事だと思っています。

同年に精神科の病棟を1病棟閉鎖しました。デイケア機能の整備とか作業療法の強化、特に精神科の看護を充実することで、それをカバーするという流れをつくっております。また、同年から「RITOプロ」を実施しております。これは琉球大学医学部の4年次学生が対象で、離島医療を体験して生活者の視点に立った離島医療の問題点や実態を実感してもらうことで離島医療への理解と興味を抱かせることを目的としたプログラムです。この離島医療を学生のころから体験することによって、将来、離島で働きたいという医師を育てたいという考え方です。これには医療部長と看護部が中心になってプログラムを作成しております。ですから、看護部が実習生の受け入れに関わったのは医学部の学生からということになります。現在では5年次の1か月コースの実習には神戸大学や杏林大学からも参加があります。

平成 21 年から県立看護大学・大学院の宮古病院教室が開設して、新しい転機を迎えました。



その模様を地元新聞がスライドのように報道しています。県立看護大宮古島教室が開所ということで、野口学長と私のツーショットも載っております。人材育成へ遠隔講義、離島看護の充実と。右側が宮古病院の院内情報誌です。一面に県立看護大宮古島教室開所式と報道し、この白衣の看護師は佐久川さんです。院内看護学校の頃の若くてかわいい佐久川さんもこのように成長して看護部長として立っております。

看護大学の実習生の受け入れ

看護大学宮古病院教室

遠隔講義システム

平成20年度：老年看護の実習受け入れ 2B病棟
 平成21年度：老年看護、成人看護、統合実習 2B、3E、3B、地域連携室
 平成22年度：老年看護、成人看護、統合実習 2B、3E、3B、地域連携室

看護大学卒業生が今年4月から採用され、宮古病院で勤務

これは看護学生が宮古島教室で勉強している風景や遠隔講義を受けているところです。昨日から話があるように、平成20年度から老年看護の実習を受け入れており、平成21年度、22年度には成人看護・統合実習というように広がってきています。離島でこのように遠隔講義で学べることは非常に大事なことです。昨日、発表した2人の看護師は看護大学を卒業して、今年4月から宮古病院で勤務しています。宮古病院で実習したことで縁が広がっているということになりますね。

看護師の専門性

感染管理認定看護師

感染管理認定看護師の活動

- 1、感染症関係の委員会
- 2、保健所への週報報告
- 3、教育活動（院内、院外）
- 4、職員健康管理（ワクチン接種計画・実施）
- 5、コンサルテーション（院内、院外）
- 6、院内感染対策（インフルエンザ、ノロ、CDなど）

看護大学大学院の受講生

現在、大学院学生は3名受講
 2名は宮古病院の看護師で働きながら学んでいる
 宮古の看護実践、看護教育の質向上に大きく寄与

また、看護師の専門性という視点から病院を見てみますと、宮古病院に県立中部病院から感染管理認定看護師が赴任しました。彼女の活動内容は感染症関係の委員会の参加、いろいろな教育活動や宮古病院以外の多くの施設からの相談もあるわけですね。それから、新型インフルエンザの流行したときも彼女の活躍は非常に大きいものがあったと思います。今後、宮古病院においてもこの認定看護師を含めた看護師の専門性ということが非常に大事になってくるだろうと思います。

それから、看護大学院の受講生ですけれども、3名が宮古病院で受講しています。そのうち2名が宮古病院の看護師で、働きながら学べるという環境は職員のモチベーションを非常に上げるということになります。それで、宮古島の看護実践や看護教育の質向上に大きく寄与するだろうと期待しております。

現在、実習指導力の向上ということで、宮古病院と県立看護大学が協働プログラムを始めています。実習指導力を向上して、効果的な実習指導が行われることを目的に行われているわけです。リーダー育成に関しては協働で取り組んでいることが将来リーダー育成に繋がるだろうし、さっき述べた認定看護師や大学院の学生など、そうした看護師たちがリーダーとして育ち、また他の看護師を育てていくことに繋がっていかれたらと期待しております。

「尊厳を考える」・「身体拘束廃止」・「排泄ケアについて」など、具体的にどう取り組むかということが非常に大事だと思います。看護大学がこれまで取り組んできたことの評価は、指導者の育成に加えて、宮古圏域の医療の看

実習指導力の向上



目的：県立看護大学と県立宮古病院の協働により、互いの実習指導力が向上し、効果的な実習指導が行えること

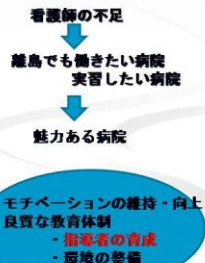
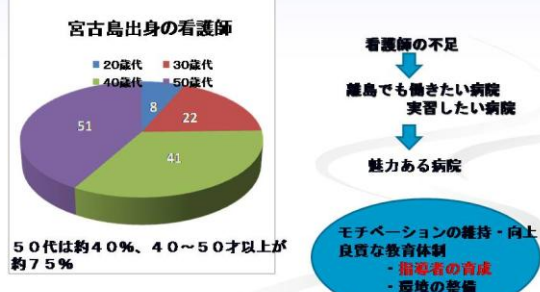
- ① 尊敬を考える
・ 身体拘束廃止に向けて
・ 排泄ケアについて
- ② 感染管理を学ぶ講話
- ③ 学生指導を学ぶロールプレイ

護の質の向上に寄与していると思います。

宮古病院の看護師を見てみると、宮古病院の看護師の総数の約 60%が宮古島出身です。ただ、年齢構成を見てみると、50 歳が 51 人ですかね。それから 40 代が 41 人で、この 40・50 歳代を合わせると 75%に上るわけですね。ですから、10 年後、20 年後にはかなり宮古島出身の看護師も減ってくると思います。それで離島でも働きたい病院、実習したい病院をつくっていくことが非常に大事だと思っております。

宮古病院の看護師年齢層

宮古病院看護師総数の 60%が宮古島出身



それから、魅力ある病院ですね。モチベーションの維持や向上ができるような病院であること。良質な教育体制がしっかりしている病院であること。それにはやっぱり指導者の育成というのが非常に大事だと考えておりますし、環境の整備も大事かと考えております。

現在の宮古病院は築 36 年になります。それで、数年前に看護部長室に天井からコンクリートが落下しました。それぐらい古いんです。それをきっかけにしたかどうか知りません

新宮古病院



けれども(冗談)、現在新病院に向けて移転、新築に向けて取り組んでいるところです。今年の5月から着工し、2年後の平成 25 年の5月にオープン予定です。それで、宮古島市夜間休日診療所もこの中に設置されて救急の連携などもしっかりとれるようになります。これは入り口から入ったエントランスの部分になります。3階部分には 170 人ほど収容できる大講堂もできます。ですから、宮古圏域の医療機関関係者の勉強会や講演会などもできるようになりますし、ITを活用した研修室等も整備しますし、ボランティア

ア室も計画する予定です。それにあわせて研修医や看護学生も含めた宿舎も整備することを考えております。

ただ、箱物は二の次なんですよね。大事なのはやはり人なんです。人材育成がいかにか大事かということです。それから、僕は教育は「人」、「熱意」、「心」だと思っています。かかわる人の熱意、情熱によって人は育っていくものだろうと思っています。ですから、昨日からお話がありますように、ボランティアの皆さんが献身的に実習生たちを迎え入れるということが宮古島の大きな財産であり、宝だろうと思っています。ですから、ボランティアの皆さんが関わることによってほかの地域とは違った形の心ある看護師を育成できるのではないかと考えております。本当に皆さんには感謝しております。

まとめになります。離島の病院では、看護師・医師など人材確保に苦労してきた歴史があり、地域での人材育成のために研修教育機能の充実が非常に重要であります。県立看護大学の取り組みは宮古島の実習指導と看

ボランティア

移送ボランティア：実習先などへの送り迎え
民泊ボランティア：学生の民泊受入と宮古島での生活体験
講義ボランティア：
・宮古島の歴史や文化の特徴の講和
・看護職者による宮古島の看護の講和

ボランティアの皆さん、コーディネーターの皆さん
ありがとうございます

護の質向上へ大きな指針を示してくれたと考えております。

今後、自立するための取り組みがこの地域にとっては重要であります。幸いにもあと1年間は看護大学の取り組みは形を変えて継続すると聞いています、その間に宮古島での自立の体制を作っていけたらと考えております。ボランティアを含めた宮古島の多くの機関が連携した人材育成を拡大していくことが必要であるし、宮古島が島をあげて迎え入れるという体制ができればすばらしいと考えております。宮古島だからこそ「心ある看護師」・「心ある医師」が育成できると信じております。

最後になりますけれども、野口学長はじめ看護大学の先生方、職員の皆さんには、本当に良い機会と転機を与えてくれたことに感謝して終わりいたします。

まとめ

- 離島の病院では看護師・医師など人材確保に苦労してきた歴史がある。
- 地域での人材育成のために、研修・教育機能の充実が非常に重要である。
- 県立看護大学の取り組みは、宮古島の実習指導と看護の質向上へ大きな指針を示してくれた。
- 今後自立するための取り組みが重要である。
- ボランティアを含めた宮古島の多くの機関が連携した人材育成を拡大していく必要がある。
- 宮古島だからこそ、心ある看護師・心ある医師が育成できると信じている。